

第四十五表 温泉岳噴火

年月日	同上(西曆)	記 事
明曆三年	一六五七 年 1 月 1 日	<p>三倉村官林噴火ス之ヲ古燒ト稱ス、其跡江丸ト飯洞岩^{ハシドツ}ノ中間ニ在リ谿谷中數町間高ク其形ヲ存ス、此時北方各村ハ夜行ニ燭ヲ秉ラザルモノ數日ナリシト云フ、其翌年深江村中木場村ノ奥谷^(赤松岩ナ)ヨリ出水シ、兩村ニ氾濫シ家屋ヲ流シ死亡三十餘人、安德川原ハ其水道ナリト云フ。<small>(金井俊行氏寛政四年島原地變記)</small></p>
寛文三年十一月二十三日	一六六三 年 11 月 23 日	<p>此活動期中ニアリテハ普賢岳北方ニ位スル飯洞岩ノ南麓ヲ破リテ數日間ニ亘リ北方ニ鎔岩ヲ流下セシメタルナリ、其ノ流路僅ニ一籽二、兩尖端ノ高距四百三十米、之レニヨリテ覆ハレタル面積約〇・一平方籽ニシテ幅廣キ部分モ漸ク百米内外ニ過ギズ、且其ノ容積ト雖トモ〇・〇〇八五立方籽ニ達セズ。<small>(震災豫防調査會報 告駒田理學士報文)</small></p>
寛政四年一月十八日	一七九二 年 1 月 18 日	<p>夜寅卯ノ刻ニ音來リ、温泉山動搖シテ翌朝ケブリ見ユル。<small>(渡邊玄「祭日記」)</small> 寛文三年三月普賢山九十九島池焼出シ二十五日目大雨ニテ消ユ云々。<small>(金井俊行氏寛政四年島原地變記)</small></p>
寛政三年十一月二十三日	一六六三 年 11 月 23 日	<p>寛政年間ノ肥前國島原温泉嶽ノ破裂ハ四ヶ月以上ニ互レル現象ニシテ、寛政三年ノ冬既ニ屢々地震アリ、小濱村ノ山嶽ハ所々崩壞シテ、家屋ヲ埋没シ二人ノ壓死者ヲ生ジ、島原ノ前山ノ巔モ亦崩レタリシガ、寛政四</p>

年月日

同上 (西曆)

記事

年一月十八日 (西曆千七百九十二年二月十日) ノ夜半ニ至テ同嶽中最高峰ノ一ナル普賢山 (海拔千四百七十八米) ニテ鳴動ヲ始メ、普賢祠ノ近傍ニ噴口ヲ生ジ蒸氣土石ヲ抛出シ泥ヲ夥ク吹キ出セリ、其ノ後噴出ハ次第ニ勢ヲ減ジタレドモ鳴動ハ止マズ時々地震ヲ感ジタリ、二月四日ニ至リ、普賢山ニ續キテ東ニ當リ一里程隔タレル穴迫ト稱スル谷間ニ震動ヲ起コシ、六日午前十時頃強キ鳴動ト共ニ噴煙シタレドモ普賢山ノ如クニハ強カラザリキ、然ルニ數日ヲ越ヘ九日頃ニ至テ火氣ヲ發シ震動モ強ク毎夜火光ヲ見燒岩轉落ノ響雷ノ如ク日々燒ケ下ダレリ、最初噴出セル普賢山ハ次第ニ鎮マリ、蒸氣ヲ吹出セル跡沼ノ如クニナリ五六尺涌上ルノミトナリシガ、二十九日ニ至リ此ノ東北ニ當リ十町ヲ隔テタル蜂之窪ト稱スル所ニテ頻ニ震動シ午後三時頃噴煙シタリ、翌閏二月三日ニ至テ再ビ同所ヨリ二町程西ニ當レル場所ニテモ噴煙シタリ、三月朔日午後三時頃ヨリ地震次第ニ強クナリ、山鳴モ頻繁ニシテ震動毎ニ岩石砂利等夥ク山腹ヨリ崩落セリ、地震ハ同夜半ヨリ翌二日午前六時頃迄特ニ烈シク島原城内外家屋ノ建具等外ル、モノアリ、破損所怪我人モアリ、地面ニ幅一寸程ノ龜裂ヲ生ジタルガ、三日ニ及ビテ強震モ間遠クナレリ、九日ハ天氣晴朗ナリシガ前山ノ南面中木場村樟林長サ百二十間、幅五六十間俄然壞落シテ溪ヲ沒シタリ、爾後地震稍々輕ク人心慣レテ避難者ノ歸來スルモノアルニ至リシニ四月朔日午後六時頃烈シキ地震二回アリ、前山

(海拔八百七十六米)ノ南面、山頂ヨリ麓迄一時ニ崩壞シテ土石ヲ押出シ安徳村北名及ビ島原ノ港灣悉ク埋没セラレ、市街ハ大手以南土砂ノ堆積スルコト數尺ヨリ丈餘ニ及ブ、海ヨリ高波ヲ打上ゲ場所ニ依リテハ高サ二三十尺ニ及ビ、城市ノ家屋忽チニシテ押シ流サレ、海邊ノ小島三個ハ消滅ス、又泥砂海中ニ押出サレテ所々ニ數十ノ小島トナリ、新タニ港ヲ形成セルモノヲ湊町トス、高波ノ打上ゲタルハ凡ソ海岸一帶ノ長サ十九里十五町ニシテ、瀕海十七村ヲ通ジ田野ヲ荒セルコト三百八十餘町、變死者九千七百四十五人、傷者七百七人、牛馬ノ斃死四百九十六頭ニ及ベリ。有明海ヲ隔テ、島原ニ對スル肥後國ノ海岸モ同時ニ高波ノ害ヲ蒙リ、死亡者ノ數ハ飽田郡ニ千百餘人、宇土玉名ノ兩郡ニ合シテ四千人アリ、又天草諸島ニテモ被害少ナカラズ溺死者三百四十三人ニ及ベリ。

二月九日ニ燒岩ヲ噴出シタル穴迫ノ火勢(鎔岩流ナリ)ハ其ノ後熾ニシテ一日三四間程ツ、燒ケ降り、遂ニハ田畝ノ地ニ及ビ、四月ニハ城外三十町許ニ近寄リタレドモ、城ハ遂ニ免ル、ヲ得タリキ、五月ニ至リ地震始メテ止ム」島原溫泉嶽破裂ノ特徴ト謂フベキハ噴火作用ノ初發ヨリ終リ迄デ四ヶ月以上ノ長サニ亘レルト、地震ノ割合ニ強カリシニアリ。

前山ハ殊ニ崩壞シ易キ状態ニアリシモノナルベク、三月九日ノ如キモ頗ル大ナル山崩レヲ生ジタリ。四月朔日ナル最後ノ崩壞ハ最モ甚シク、崩レ落ちタル場所ハ幅約二十町、長約二十町ナルガ、崩壞セル土砂層ノ厚サヲ一町ト假定スレバ、其ノ容積ハ四百立方町トナル、即チ厚サ三尺ニ

年月日

同上(西曆)

記事

直ホセバ、三十六平方里ノ面積トナリ、島原半島ト肥後國玉名、飽田、宇土諸郡トノ間ナル有明海ノ廣サト殆ド相等シ、此ノ如キ數量ヨリ推考スルニ島原大崩壞ニ伴ヘル津浪ノ起因ハ崩壞セル土砂ガ海中ニ打チ込マレタル爲ニ水ヲ排除シテ先ヅ浪ヲ隆起セシメ、其ガ原動力トナリテ海水ノ動搖ヲ生ジテ附近ノ港灣ニ於テ津浪トナレルナルベシ、前山大崩壞ノ起リタルハ爆發ニハ非ズシテ單ニ地震ノ地響ノ爲ナルベシ。

第四十六表 口之永良部島噴火

年月日

同上(西曆)

記事

周回二里二十町ニシテ南面ニ一小灣アリ、徑八町許ナリ、其正面ニ元村ト稱スル所アリ昔日炎火ヲ發セシトキ灰砂ノ爲ニ填埋セラレタル村落ナリ當時人民多ク死シ殆ンド無人ノ境ノ如クナリシト云フ、其嶽體ハ鎌倉嶽、前嶽、雛嶽、燃嶽等ノ數峯アリ、燃峯ハ現時ノ噴炎山ニシテ高サ約千七百尺弱ナルベシ。(東京地學協會 報告第一卷)